

富山県低地の氷見市乱橋池のアメンボ類

著者	立川 周二
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	16
ページ	97-100
発行年	1993-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=618

短 報

ターの根来 尚氏に心よりお礼申し上げる。

富山県低地の氷見市乱橋池のアメンボ類*

立川 周二

東京農業大学昆虫学研究室¹⁾

はじめに

氷見市の丘陵地帯の谷間には、湧水を貯めて農業用水を目的とした、ため池が散在する。乱橋池もそれらの一つであるが、成立が古く、また人為の攪乱が途絶えて久しいために、池の植生が良く保たれて、水面をヒシが被い、水中にはタヌキモが繁茂し、コウホネの群落も見られる。二橋・根来(1992)は、乱橋池とその周辺部から51種のトンボ類を報告し、ごく狭い範囲からこれだけのトンボ類が記録されることは、「まことに希有なこと」で、この池は貴重な存在であるとした。

日本産アメンボ類の研究は、宮本(1961)により分類学的検討がなされているが、国内分布の詳細や生態に関しては、白紙の部分が多く残している。これまでに富山県から陸水産のアメンボ類は、6種類が記録されている(日浦, 1962, 1967; 瀬川, 1969; 富山県昆虫研究会編, 1976, 等)。特に根来(1988)は県内の多数の池を調べ、アメンボ類の分布状況を報告するとともに、各種の生息場所の選択を検討している。

筆者はこの度、富山県の低地において、水生昆虫の生息に良好である環境として、乱橋池を選び調査した結果、本県からは未記録と思われるアメンボ類2種を含め、僅かながら知るところが得られたので報告する。

調査地の乱橋池を教示下さり、また本報告の公表にお世話戴いた、富山市科学文化セン

調査地

調査地の乱橋池は、高岡市の境界に近い、氷見市東部の宮田地区に所在する。周囲の一方は水田として開け、他はタケ林とスギ林に囲まれている。池はほぼ台形をして、広さ約60a、標高約20mに位置する。調査は1991年6月25日、12時30分から14時30分まで行った。池を1時間、池の周囲を1時間かけ調べた。

当日の天候は曇時々小雨。気温26°C、池の水温24°C、湧水の水温16°Cであった。池の南が谷すじで、多くの湧水はこちらから流入し、谷間はヨシが密生し、湧水を集めた細い流れがある。池のこの南端から池中のヨシ原は、一部が浮島となり、体のバランスを加減するならば、これらの上に立つことができる(図1)。池の調査はこのヨシ原と、ヒシが浮いている開放水面の境を中心に行った(図2)。また、池の周囲を巡るとともに、休耕田の流れを調べた。

結 果

乱橋池およびその周辺部から、以下のアメンボ類5種の生息が確認された。

1. *Gerris (Aquarius) paludum japonicus* (Motschulsky, 1866) アメンボ
長翅型 1♀.

池に生息をみたのは上記の個体のみであったが、周囲の水田中、用水堀、小流には多数の成虫と幼虫が活動していた。開放水面に多くみられる種である。

2. *Gerris (Gerris) insularis* (Motschulsky, 1866) ヤスマツアメンボ
長翅型 4♂♂, 1♀.

池にはみられなかったが、池に近い休耕田

* 富山市科学文化センター研究業績第142号

1) 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

脇の細流で、流れが広がって緩慢になり、なおかつ樹陰によって暗い水面から、幼虫とともに見つけ出された。湧水が供給されて、水量の安定した水たまりなど、比較的狭い水域に生息する種である。

3. *Gerris (Gerris) babai* Miyamoto, 1958

ババアメンボ

微翅型 12♂♂, 4♀♀ (図3)。

池の水辺に叢生したヨシ間で活動し、生息場所が攪乱されると、開放水面に泳ぎ出ることもあるが、短時間で再びヨシ中に戻ることが観察された(図2B)。この時の移動は、ヒメアメンボに比べ、水面を滑走する速度が早い。生息場所は抽水植物と関係があり、限られた環境に生息する。「日本版レッドデータブック」に登載されて、「希少種」の区分に入られている。

4. *Gerris (Gerris) latiabdominis* Miyamoto, 1958 ヒメアメンボ

長翅型 16♂♂, 11♀♀。

池で採集された個体は、上記の通りであるが、その他にも池で多数の個体が目撃され、また周辺の水田中で最も個体数の多かった種である。水田ではイネが20~30cmほどに生長し、ヒメアメンボは成虫と様々な齢期の幼虫が見られたが、成虫は体の軟弱な個体も混じり、羽化後の新成虫と判断された。

5. *Gerris (Gerris) amembo* Esaki et Miyamoto, 1958 ハネナシアメンボ

無翅型 6♂♂, 4♀♀ (図4A, B)。

長翅型 1♀ (図4C)。

本種はヒシなどの浮葉植物の葉上に静止していることが多く、泳ぎ回することは少ない(図2A)。移動はヒシ葉間を直線的に、水面を飛び跳ねるようにして行う。生息条件として浮葉植物が重要で、ヒシ等が見られる池には少なくないが、現在急速に生息地が減少しつつある(未発表)。長翅型よりも無翅型の出現比率が高い場所が多いが、生息地の環境がどの

くらい安定しているか、その程度の差によると思われる。

これまでに、富山県からババアメンボとハネナシアメンボの記録がなかったようであるが、2種ともに低地の比較的人為の影響が少なく、水生植物が残された池沼や低湿地のような環境に生息するアメンボ類である。今回の調査では確認できなかったが、これまでに知られているアメンボ類の国内の分布より、富山県低地のアメンボ類としてもう一種、エサキアメンボ *Limnoporus esakii* の生息が予想される。乱橋池のみでなく、県内に似たような環境の池は、他所にもあると思えるが(過去にはもっと多かったろうが)、一方では「池沼・低湿地・谷津田・里山」等の環境が、調査もされないまま急速に消えつつある。二橋・根来(1992)が指摘した通り、アメンボ相からも乱橋池は貴重な自然環境であることを認め、県内のこれらの環境を見直すとともに、さらに調査の必要を感じる。

文 献

- 朝比奈正二郎, 他(監修), 1992. レッドデータアニマルズ. 190pp., JICC 出版局.
- 日浦 勇, 1962. コセアカアメンボ群の分布. *ROSTRIA*, 3: 9-11.
- 日浦 勇, 1967. 日本産水生・半水生半翅類の分布の研究1. 大阪市立自然科学博物館研究報告, 20: 65-81.
- 二橋弘之・根来 尚, 1992. 氷見市宮田乱橋池とその周辺部のトンボ類. 富山市科学文化センター研究報告, 15: 81-85.
- 宮本正一, 1961. 日本昆虫分類図説, 第1集 第3部, 半翅目アメンボ科. ii+40pp. 北隆館.
- 根来 尚, 1988. 富山県における淡水棲アメンボ類の分布と生息場所. 日本生態学会誌, 38: 9-17.

瀬川哲夫, 1969. 富山県の淡水アメンボ.
Amica, 13: 10-11.

富山県昆虫研究会編, 1979. 富山県の昆虫.
iv+545pp., 富山県.



図1. 乱橋池, 水田側から丘陵の谷方向を見る。矢印はヨシ原の調査場所。

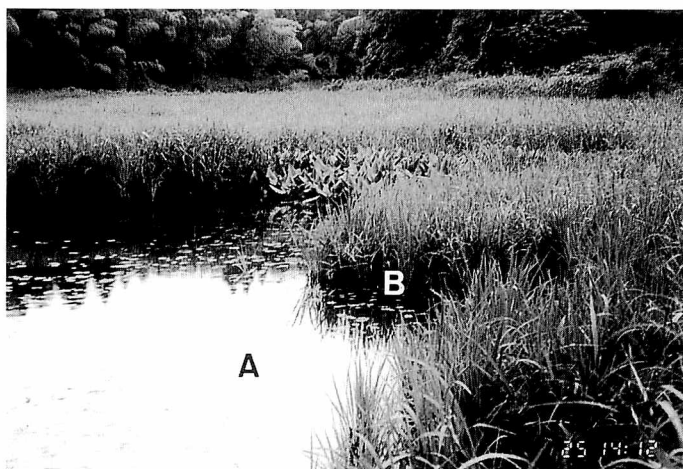


図2. 乱橋池, Aはハネナシアメンボを採集したヒシ域。Bはババアメンボが活動していたヨシ域。

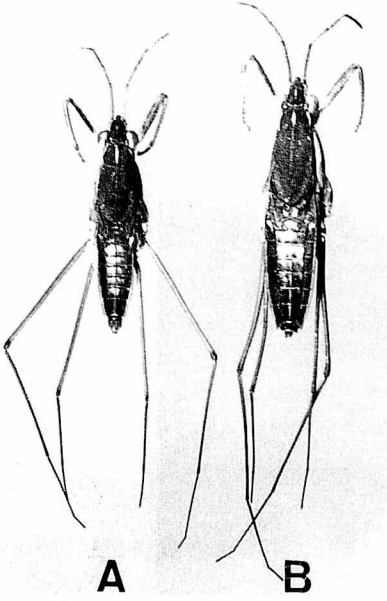


図3. 乱橋池より採集されたババアメンボの微翅型。Aは雄。Bは雌。

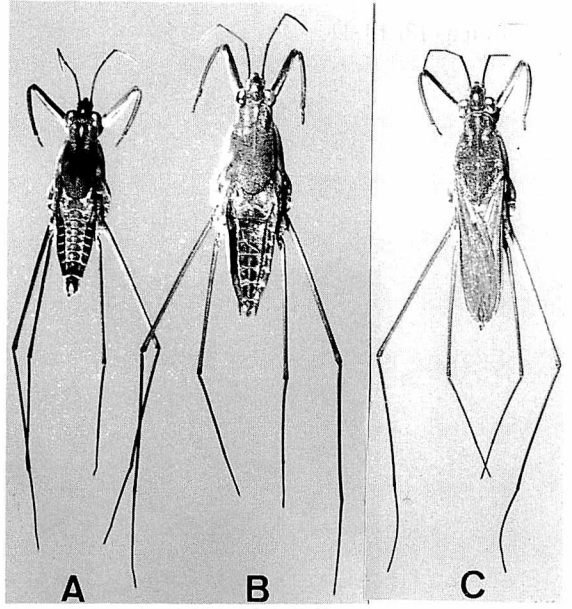


図4. 乱橋池より採集されたハネナシアメンボ。Aは無翅型の雄。Bは無翅型の雌。Cは長翅型の雌。